

建設技術審査証明事業(建築技術)審査技術概要シート

建設技術審査証明事業実施機関



一般財団法人**日本建築センター** The Building Center of Japan

[審査証明番号/有効期限]	BCJ-審査証明-257/2028 年 9 月 26 日
[技術の名称]	施工時環境配慮型改質アスファルト防水常温工法 「アスレイヤ水性工法」
[依頼者(審査証明取得者)]	田島ルーフィング株式会社

[技術概要]

アスレイヤ水性工法は、従来のアスファルト防水 熱工法の長所である水密性や信頼性を有している。 一方で、短所である溶融アスファルトの煙の問題や 裸火の使用による火災の懸念を払拭し作業環境に配 慮した技術を有する。

当該工法は、エマルション系改質アスファルトと、 反応成分を含む硬化剤を撹拌して使用する2液反応 タイプの塗膜材であるレイヤコート水性と、改質ア スファルトと特殊な基材との組み合せにより、強靭 で柔軟性に優れた性能を有するレイヤソフトの組み 合わせを基本とした常温複合防水工法である。

なお、レイヤコート水性は2液反応タイプの塗膜 材で、安定した反応硬化性と各種物性を示す。

平面部

	. —		
	1	水性プライマ―C(5 倍液)	
	2	レイヤソフト (レイヤコート水性・塗布張付け)	
ı	3	レイヤコート水性	

立上り部

<u> </u>	
I	水性プライマ―C(5 倍液)
П	レイヤソフト (レイヤコート水性 立上り用配合 ・塗布張付け)
Ш	レイヤコート水性 立上り用配合

[開発の趣旨]

在来のアスファルト防水熱工法は、アスファルト系ルーフィングと防水工事用アスファルトとの積層工法により防水信頼性は高いが、大型溶解釜装置の搬入が必要であり、また裸火を使用するため火災の懸念や溶融アスファルトからの煙・臭気等の作業環境影響も指摘されている。

アスレイヤ水性工法は、これらの点を考慮し、以 下を目的として開発した。

- ・2 液反応硬化タイプのエマルション系改質アスファルト塗膜材を使用することで、在来工法と同等の性能を維持したまま施工工程を簡略化し、臭気の発生の低減により、作業環境の改善と近隣環境負荷の軽減を実現する。
- ・アスファルトを溶解するための燃料を使用しないことにより、施工時の二酸化炭素発生量を低減する。

[開発目標及び審査証明結果]

本技術について、前記の開発の趣旨及び開発の目標に照らして審査された結果は、以下のとおりである。

- (1) 在来のアスファルト防水熱工法と比較して、簡易な工程で同等の性能を有するものと判断される。
- (2) 加熱溶融アスファルトを使用しないことにより、 在来のアスファルト防水熱工法と比較して環境負 荷の軽減を図ることができるものと判断される。

[本技術の問い合わせ先]

田島ルーフィング株式会社

営業企画部 防水テクノサービス課 TEL 03-6837-8880